



2023年度

女性およびライフイベント（育児）中の研究者支援の取り組み

ダイバーシティ・キャリア支援センターでは、女性およびライフイベント中（小学校3年生までのお子さんの育児中）の研究者に対して、下記①-③の研究・論文作成支援及び研究業績を表彰する取り組みを行っています。

何れの制度においても、女性研究者は、講師または助教（任期付助教を含む）の方が、育児中の有無を問わず応募対象となります。男性研究者では、講師または助教（任期付助教を含む）であり、小学校3年生までのお子さんを育児中の方が対象となります。また、男女を問わず、産前産後休暇・育児休業・介護休業中の方も応募対象です。（他諸条件があります。詳細は公募要項をご確認ください。）

【支援制度】

- ①ダイバーシティ研究助成金（1件当たり 50万円上限）
- ②ダイバーシティ英語論文作成費助成制度（1論文あたり 5万円上限）
- ③ダイバーシティ表彰（学術分野）〔賞状と副賞（5万円）授与〕

本年度の①の採択者、③の受賞者は下記の通りです。なお、②の英語論文作成費助成は、2024年2月29日まで受付けをしておりますので対象となる方は是非ご応募ください。

ダイバーシティ：性別やライフスタイル等に関わりなく、多様な個性が力を発揮することにより、組織として最大限の能力を発揮しようという考え方。

2023年度聖マリアンナ医科大学 ダイバーシティ研究助成金 採択者

氏名	所属	研究課題名	助成金額
佐藤 利行 助教	生化学(化学)	顕微鏡的多発血管炎のバイオマーカー候補AC13の臨床検査法の確立	40万円
梅本 久美子 講師	臨床腫瘍学	膀胱癌患者における腫瘍検体(組織、細胞診)と血液検体を用いたKRAS変異測定の前臨床性能を評価する研究	30万円
チェン・サンディ 助教	難病治療研究センター	セレノネイン添加に伴う、凍結融解マウス卵子におけるミトコンドリアの酸化ストレス反応への影響を検証	30万円

2023年度聖マリアンナ医科大学 ダイバーシティ表彰(学術分野) 受賞者

氏名	所属	掲載雑誌	論文表題
三浦 慎也 講師	小児科学	Journal of Intensive Care 2023;11(1):6-13	Descriptive statistics and risk factor analysis of children with community-acquired septic shock
大橋 彩香 助教	免疫学・病害動物学	Frontiers in Microbiology 2022;13:874998	The plasma level of interleukin-1 β can be a biomarker of angiopathy in systemic chronic active Epstein-Barr virus infection
吉田 英樹 助教	救急医学(集中治療)	Antimicrobial Resistance and Infection Control 2022;11(1):119	Use of broad-spectrum antimicrobials for more than 72 h and the detection of multidrug-resistant bacteria in Japanese intensive care units: a multicenter retrospective cohort study

2023年度ダイバーシティ表彰(学術分野)授賞式 2023年10月18日(水)



2023年10月18日(水)に医学部6階大講堂にて、ダイバーシティ表彰(学術分野)授賞式を執り行いました。この制度は、女性研究者、または育児中の研究者を支援するもので、今年度も多数の応募者の中から優秀な論文を発表した方3名が選ばれました。

式では、受賞者の三浦講師、大橋助教、吉田助教へ、センター長の北川学長より表彰状と副賞(5万円)が授与されました。

後列:左から伊野副センター長、小児科 清水主任教授、免疫学・病害動物学 宮部主任教授、救急医学 藤谷主任教授、明石副センター長、高田女性医師・研究者支援部会長

前列:左から北川学長、小児科学 三浦講師、免疫学・病害動物学 大橋助教、救急医学 吉田助教、加藤医学部長



開式の挨拶:高田女性医師・研究者支援部会長、祝辞:北川学長・センター長、閉式の挨拶:加藤医学部長



三浦講師



大橋助教



吉田助教

ダイバーシティ研究助成金2022年度採択者講演について

2023年10月19日(木)～11月16日(木)にオンデマンド形式で開催された第84回医学会学術集会において、ダイバーシティ研究助成金制度の2022年度採択者に研究成果を発表していただきました。講演内容は以下の通りです。

古谷 菜摘 助教 産婦人科学(産科)

微細血流超音波ドブラを用いた胎盤の病理学的所見の予測に関する検討

山崎 和子 講師 内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー内科)

炎症性筋疾患合併間質性肺疾患の治療最適化を目的とした肺CTの機械学習による進行度推測

土屋 貴大 助教 生化学(生化学)

サイクリン依存性キナーゼ1(CDK1)の活性化におけるlayilin(ライリン)の役割の解明

大学院キャリア教育 2023年12月9日(土)

大学院総合教育科目Ⅲの講義では、鈴木(黒川)真奈絵指導教授(女性医師・研究者支援部会員)が「研究者としての生涯構想」を担当しております。2023年度は12月9日(土)に対面形式で行なわれました。

講義では、医師のキャリア形成のタイムコースとその中の大学院の位置づけについて、医師が研究に携わる利点、どのようにして生涯研究を続けていくか等についてお話があった後、医師歴20～30年で実際に研究を継続しているロールモデルが数例紹介されました。

その後、各大学院生より、1. 大学院卒業後、どんな研究をしたいか、2. 研究のため留学する場合、1) どの大学・研究機関に留学し、2) どんな研究をしたいか、3. 留学後、生涯に渡り、1) どのようなスタイルで、2) どんな研究をしていきたいか、について、レポートによる報告がされました。大学院生の皆さんは、各自の希望・方向性を元に明確な計画を打ち出しており、聖マリアンナ医科大学大学院から若い研究者が次々と巣立っていくのが非常に楽しみとなっております。

医学部2年生キャリア教育 2023年12月16日(土)

2023年12月16日(土) 1限から3限の医学部第2学年「実践医学」の授業で「卒前キャリア教育」を開講しました。

講師は、全国の医学部卒前教育で男女共同参画に関する講義・ワークを実践されている、蓮沼直子先生(広島大学医学部附属医学教育センター教授)に毎年依頼をしています。今年はコロナ禍後、久々の対面形式での授業となりました。

授業は、伊野副センター長の挨拶から始まり、明石副センター長に「洗面所の使い方」と題した基調講演でダイバーシティに関連したお話をしていただいた後、蓮沼先生の司会・進行により、「子供の朝の発熱」・「女性外科医の海外留学」のどちらかのケースについて、複数のグループに分かれ問題点・その対処等の発表を行いました。発表前に行われたグループ討論では、男女問わず学生たちが活発に意見を出し合い、真剣に取り組む姿が見られました。また、若手医師のロールモデル講演として救急医学 金澤 実先生よりご自身の体験談をお話いただきました。出席者からのアンケート結果では、内容について「かなり満足・満足」、興味について「極めて適当・適当」の項目が共に約73%との回答が得られました。中でも、グループ討論で複数の視点で物事を考えることができ楽しかった・ロールモデル講演が大変参考になった、今後もっと様々な先輩医師の話を聞いてみたいとの意見が多数あり、将来のキャリアを考える為の有意義な時間となりました。

～ 受講者アンケート回答より(抜粋) ～

● 医師のキャリアを考えてみてどう感じましたか? ●

- ・今は未来の話だからと深く考えていなかったのですが、今後は将来のキャリアについて考えようと思いました。
- ・未だに男女によるキャリアの難しさを感じた。
- ・自分だけのキャリアでなく、パートナーのキャリアやライフイベントを考慮していかなければならないことに難しさを感じた。

- ・医師同士の夫婦は子供を持つと、緊急時に対応することがとても難しく、個々で解決する必要がある

だけでなく、社会全体が医師の働き方やワークライフバランスを整えるようにしていく必要があると考えました。

- ・私と友達の考え方が異なる部分もあり、話し合いがたくさんできたのでよかったです。キャリアを考える上で、今日話し合っただけの意見や先生が共有してくださったやり方を参考にできることが多く自分のキャリアを形成していく上で役に立ったと思う。

- ・医師は常に、学び続ける必要があるのと同時に、大人になってからも留学の機会があったりと、チャレンジし続けることもできる職業だと感じ、将来への楽しさを見出せました。

- ・正解がなく、色々なキャリアの歩み方があることを学べた。パワフルな事例を聞けて勇気を持てた。

● 今後のキャリア教育に期待することは何ですか? ●

- ・今後もこのような講義があると多くの学生にとって良い機会になると思う。

- ・様々な経験をした人の話を聞けるような講義があると自身のキャリアにも活かせると思う。

(他にも開業をしている、離島で働く、留学した、海外で子供を出産した医師の話を聞いてみたいなど同様の意見多数あり)

- ・様々な選択肢を知りたい。どのような働き方があるかなど具体的な選択肢を学びたい。

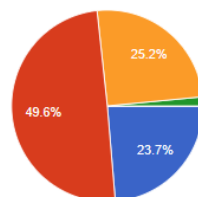
- ・今回は女性が主体となるキャリアの問題だったように感じたので、男性が主体となるキャリアの問題も知りたいと思った。

- ・医師のキャリアの質問会を行ってほしい。

内容の満足度はいかがでしたか?

131件の回答

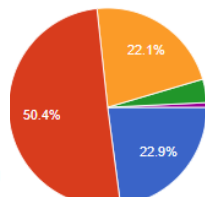
- かなり満足
- 満足
- やや満足
- 不満
- とても不満



あなたの興味に対して適当でしたか?

131件の回答

- 極めて適当
- 適当
- やや適当
- やや不適当
- 極めて不適当



医学部4年生キャリア教育 2023年12月20日(水)

医学部4年生の臨床実習オリエンテーションにおいて、免疫学・病害動物学 宮部斉重主任教授から「医師のキャリア形成に関して-臨床・研究・留学・育児について-」というタイトルで講演いただきました。

前半は、2022年に当学の主任教授となられるまで、医師・教育者・研究者としてのキャリアをどのように積んできたか、今までに関わった人との出会いや、進路選択をする上でのメリット・デメリットに触れながらのお話をされ、

後半は、女性のキャリア・育児について、ご自身が実際に利用したアメリカでのデイケア(保育園)や、日本の幼稚園・小学校のアフタースクールのサービスを紹介され、ご自身がどのように研究をしながら育児を乗りきったかをロールモデルとしてお話をしてくださいました。最後には、

- ・自身のキャリアプラン(短期・中期・長期)を明確にする。
 - 1: 人生における「目標」を明確にする。
 - 2: 「目標」を実現するための“戦略”を論理的に構築する。
 - 3: 適宜、目標や戦略を見直し、必要に応じて修正をする。
- ・人との出会いは大切に!

いつ、どこで、誰が自身を助けてくれるかはわからないとお話しになり授業を締めくくりました。



2023.12.20

医師のキャリア形成に関して

- 臨床・研究・留学・育児について -

免疫学・病害動物学
宮部 斉重

医学部保護者会における相談会 2023年10月28日(土)

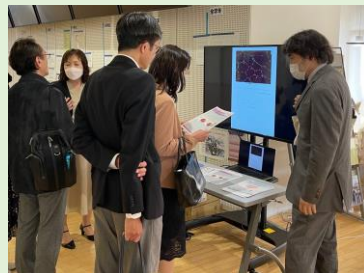
女性医師・研究者支援部会では、春・秋の年2回、医学部保護者会の懇親会に合わせ「学生・保護者相談会」を開催しています。

2023年秋は、10月28日(土)に教育棟1階マリオン前にブースを設置し、高田主任教授(部会長)・鈴木(黒川)大学院教授(部会員)・大岡教授(部会員)が保護者の方からのご質問にお答えしました。

当センターの活動紹介のために、保育・介護支援ガイドブックやNews Letter、大学院パンフレット、各診療科の資料などを相談ブースに用意し、大型モニターでもスライド

ショーを流して各診療科を紹介したところ、保護者の方が立ち止まり、資料を手にとって持ち帰られ、多くの方に関心を持っていただくことができました。

次回は来春の保護者会懇親会開催時の時間帯に相談ブースを設置する予定です。



教員と医学部4年生のランチ交流会 2023年12月19日(火)



当センターの活動や本学のキャリア支援を学生へ広報する場として、また医学生からのキャリア形成や本学で行なっている支援についての質問に答える機会として、12月19日(火) 12時30分から1時間程度、教育棟会議室にて昼食を取りながら教員7名と臨床実習開始前の医学部4年生11名の計18名で交流会を行いました。大学院進学、結婚・出産のタイミングや毎日の育児など、先生方が教員として、また医師の先輩としてお話しくださいました。普段の授業ではなかなかゆっくりと聞けない話題に、和やかな雰囲気の中、時には笑いを交えながら楽しそうにお話を聞く学生の皆さんの姿が印象的でした。



●ダイバーシティ・キャリア支援センター●

電話044-977-8111(内線5814)、メール(ご相談・ご意見): career@marianna-u.ac.jp